



私・の・名・作・ブ・ッ・ク・レ・ビ・ュ・ー

TEMPO BOOKS

中野香織さん
(服飾史家)



釣りにもゲテモノ食にも珍酒にも興味はない。しかし、開高健が書くイワナ釣りのエピソードやネズミ食いの話、蛇酒のエッセイは、もう何度読み返したことか。

骨太で頑丈、でも消化力が強いゆえに贅肉もだぶつき、なのに柔軟で反射神経抜群。開高健の肉体そのものを思わせる文章が、心と頭をたっぷり潤してくれる。

雲古、御叱呼を語つて清潔、屋台の魚の匂いを描いて新鮮、早漏を「ワイアット・アップ」と呼ぶゆえんを説いて上品。「おやじくさい」と笑いつつも、どんな対象にも偏見を抱かず、見たまま等身大で表現しようとする誠実

釣りおやじの氣宇壮大

●開高健『開口閉口』



さに魅了され、気がつけば脳内開高ワールドで開高さんと一緒に釣りをしていたりする。ベテラン釣り師、開高さんは教える。「釣った魚は逃がしてやれ」。どうして? 「あの湖に何匹、あの谷川に何匹、おれの魚が棲んでいるのだと考へると、まるでその湖や川が自分のものになった気がしてくる」。釣った魚は水に帰し、その尾を見送る。「その見返りに日本海や太平洋があなたのものとなる」。釣りおやじの氣宇壮大が地球環境への親しい思いにつながる。素敵すぎ。

テーマに無関心な読者をひきつけるには、具体的な「生」の息吹を伝えるなかで背後の「大説」を感じさせること。マイナーなテーマについて書くときには、開高さんのそんな教えを肝に銘じています。

作品紹介 食物、政治、文学、釣り、酒、人生、読書……豊かな想像力を駆使し、時には辛辣な諷刺をまじえ、名文で読者を魅了する64のエッセイ。(新潮文庫)

文庫本39冊にわたる短編1042編をすべて収録。
愛蔵版ショートショート大全集。○定価31500円(税込)

星新一ショートショート1001

関係者一三四人への取材と膨大な遺品から、誰もが知っている小説家の、謎に満ちた実像に迫る決定版評伝。

発売中○定価2415円(税込)

新潮社

〒162-8711 東京都新宿区矢来町71 http://www.shinchosha.co.jp

星新一
最相葉月
Hazuki
Saisho

100一話をつくった人

